

子ども文書館だより ふみくら

第4号

2013年3月29日発行

ふじさわしもんじょかん
藤沢市文書館

〒251-0054 神奈川県藤沢市朝日町12-6

TEL 0466-24-0171 FAX 0466-24-0172

藤沢市文書館

検索

ここをクリック!



あくたがわりゅうのすけ

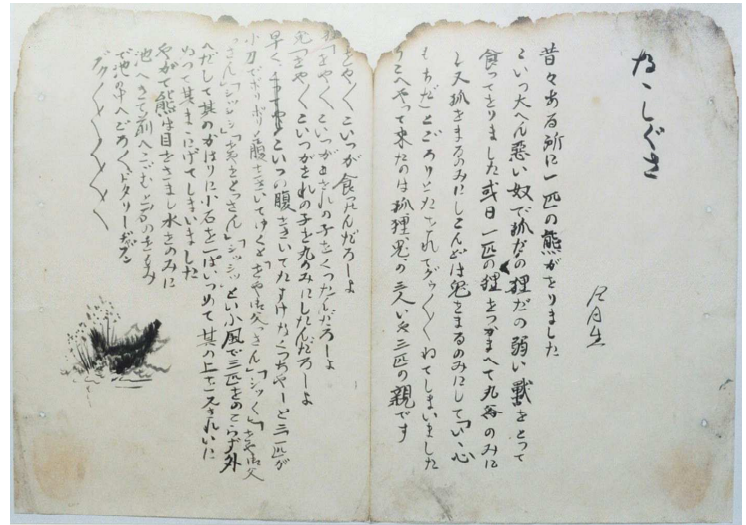
芥川龍之介の写真と11歳の時の作品の表紙

左の写真は、今から90年前くらい前（明治・大正）の小説家・芥川龍之介（1892—1927）の18歳ごろの姿です。彼を記念して、すぐれた小説を書いた人におくられる「芥川賞」という賞もつくられています。この写真は東京府立第三中学校（現在の東京都立両国高等学校）の卒業記念で写されたのではないかと思います。

龍之介は子どものころから本を読み、文章を書くことが好きな人でした。それで右の写真のような、子どもたちで作品を持ち寄り、1冊に綴じ込んだ雑誌などを出していました。この他にも、実家のスケッチや落書きなども残されています。（中村）

龍之介の10～11歳のときの作品

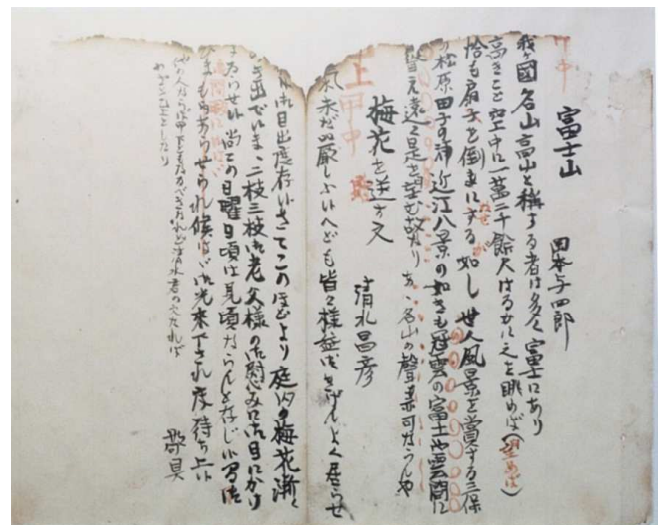
★ かいらんざっし 回覧雑誌『日の出界』臨時増刊
 りんじぞうかん



ときいっそく
 臨時増刊「お伽一東」と龍之介の作品「ななしぐさ」

ここで紹介する作品は、龍之介が今の東京都墨田区にあった江東小学校の在学中(10～11歳)に、友だちといっしょに詩や作文を書いて、まとめたものを回し読みをしていた雑誌に入っているものです。これらは今からちょうど110年前(1903年)に出されました。龍之介はこの雑誌のとりまとめ役で、友だちの作品に対してもまちがった字を赤で直したり、龍之介なりに点数をつけたりしていました。また「RA太郎」とか「溪水」といった、いくつかのペンネームを使い分けていたのです。

龍之介の作品や写真が文書館にあるのは、龍之介の甥にあたる方が鵜沼海岸に資料を持って住んでいて、その方の妹さんから文書館に資料が贈られたからです。(中村)



龍之介の作品「日の出海」

龍之介の直しと点数が入ったもの

むかしの人の手紙から 第1回



北条早雲が江の島にあてて書いたもの(岩本院文書)^{いわもといんもんじょ}

歴史の本を書くための材料となるものを史料といいますが、昔の人が書いた手紙も史料のひとつにあたります。上の写真は、今から500年以上前の時代に、小田原にいた戦国大名の北条早雲が、江の島の人たちの求めに応じて出したものとされています。

この手紙で早雲は、「江の島では、北条軍の兵士(手紙の1行目の「^{ぐんぜいこうおつにん}軍勢甲乙人」)が好き勝手に暴れまわること(手紙の1行目から2行目にかけての「^{らんぼうろうぜき}乱妨狼藉」)はいけません。それで、きまりを守らない兵士がいるなら、きびしく罰する」としています。それで江の島の人たちは、この手紙を北条軍の兵士たちに何度も見せたのでしょう。そのためにこの手紙も少し汚れ、切れているように見えます。

なお、手紙の左下にある模様のようなものは、^{かおう}花押^{おこな}といって、大名が自分の名前を書く代わりに付けていたサインの一種です。

この手紙の題名でもある「^{きんぜい}禁制」とは、大名など身分の高い人が、^{おこな}行^{えのしま}ってはいけないことを示した手紙で、下に「江嶋」と書くことで、きまりが守られるのが江の島の中であることを示しています。(伊井)

クイズ・写真に見る藤沢（第2回の答え）

下の古い写真は、今からおよそ100年前に建てられた、藤沢市内のある鉄道の駅のようすだよ。この駅の名前がわかるかな？



おちあいとしおけもんじょ
(落合威雄家文書)

【^{こた}答え】 これは^{つじどうえき}辻堂駅。大阪方面行きの汽車がホームに入るところだよ。

【^{かいせつ}解説】 辻堂駅は、大正5(1916)年12月1日に、辻堂海岸にあった海軍の訓練場所に道具などを運ぶために開かれたんだ。この駅を建てるために、地元の人たちが土地とお金を出し合ったんだよね。建てられた駅舎は、今の駅南口のスロープ降り口の近くにあったんだけど、このころは駅の近

くにキツネも出たんだそうだよ。そして駅の北側では東京や川崎から肥料が運ばれてきたんだって。昔から住んでいるお年寄りの中には、^{しもこえ}下肥も来たという人もいるよ。

辻堂駅は今から60年前(昭和28(1953)年)に、駅の西口とホームにつながる橋(左下の写真)ができたんだ。それから20年以上たって、右下の写真のように建てかえられて、駅の南北を自由に歩けるようになったんだ。それと、駅の北側に工場が建てられたり、南側に辻堂団地ができたことで、駅を利用する人が増えたんだよね。今から40年前にはこの駅を利用する人が、1年間で1千万人を超えたんだ。

21世紀に入って、辻堂駅の北口は「湘南シークロス」になって、工場などの^{あとち}跡地にショッピングセンターや映画館、病院が新しくできた。むかしの駅を知っている人から見れば、ずいぶん様子が変わってしまったということになるんだろうね。(中村)



60年前の辻堂駅の西口



およそ30年前の辻堂駅の南口

※題名の「ふみくら」は、本や記録を納めるところをさす古いことばだよ。